

## 日本学生支援機構給付奨学生の推薦基準

石川工業高等専門学校  
平成 30 年 3 月 5 日制定

独立行政法人日本学生支援機構（以下「機構」という。）の募集する給付奨学生採用候補者については、本推薦基準に基づき、機構から示される人数の範囲内で基準該当者を選考し、学生支援委員会の議を経て、機構に推薦するものとする。

### （１）家計について

生計を維持する者が、以下の①、②のいずれかに該当し（社会的養護を必要とする学生等の場合は、③に該当すること）、生活環境などを勘案して、親権者等からの支援が見込めない等、その者の進学が非常に困難な状況にあると認められること。

- ① 市区町村民税所得割を課されていないこと  
（奨学金申込年度の課税証明書に記載の所得割額が 0 円であること）
- ② 生活保護を受給していること  
（奨学金申込日現在において保護費を受給していること）
- ③ （注）の施設等に入所していること  
（学生等が 18 歳時点で入所等していた（またはしていることが見込まれる）こと）

### （２）人物について

第 3 学年に在籍し、第 4 学年に進級する見込みがあり、以下の全てに該当すること。

- ① 修学の目的が明確で、希望する進路先及び将来への展望がある
- ② 校則を遵守し、学生にふさわしい学校生活を送っている
- ③ 学校行事等において他の学生と協力するなど、十分な協調性を備えている

### （３）健康について

以下のいずれかに該当すること

- ① 定期または臨時の健康診断等により、概ね健康であると認められる
- ② 心身に障害や疾病がある場合であっても修学に耐えられると見込まれる

### （４）学力及び資質について

以下の①を満たし、②のいずれかに該当すること。（社会的養護を必要とする学生等（注）は③に該当すること。）

- ① 第 2 学年末の成績が学科の 2 分の 1 以上に該当するかまたはそれと同等と認められる

② ア～ウのいずれかに該当するかまたは類似の活動が認められる

ア： 課外活動（部活動含む）に積極的に参加し、具体的な成果・成長が認められる

イ： 学生会の役員等を経験し、具体的な成果・成長が認められる

ウ： ボランティア、地域活動等に積極的に参加し、具体的な成果・成長が認められる

③ 第3学年において学業に前向きに取り組み、第2学年末の成績が学科の3分の2以上に該当する

(注) 社会的養護を必要とする学生等とは、申込時に以下の施設等に入所等している（学生等が18歳時点で入所等していた（またはしていることが見込まれる））学生等をいう。

1. 児童養護施設（児童福祉法（昭和22年法律第164号）第41条に規定する施設）
2. 児童心理治療施設（同法第43条の2に規定する施設）
3. 児童自立支援施設（同法第44条に規定する施設）
4. 児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）を営む者（同法第6条の3第1項に規定する事業を行う者）
5. 小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）を営む者（同法第6条の3第8項に規定する事業を行う者）
6. 里親（同法第6条の4に規定する者）

## 附 則

この選考基準は、平成30年4月1日から適用する。

また、退学後2年以内の者についても、この選考基準を準用するものとする。